

中山家範館跡（飯能市）

築城年代：鎌倉時代、築城者：中山助季

ここが下記縄張図の「現在地」/道路脇に中山家範館跡説明板と中山家範館跡碑が並んで立っている

[video](#)



説明板はこのように劣化していて良く読めない

埼玉県指定旧跡

中山家範館跡

飯能市大字中山四九六番地二丁目
昭和三十八年八月二日を日付に

中山家範は戦七定の一ツ丹波の出で、鎌倉時代の加治原の頃に中山に居住し、中山を氏とするようになったという。館の西方に位置する智観寺には、加治原平太夫の御尊のために建立されたと推定される板碑（に治二・三年一・二四一・一五四二）がある。

中山家範は後北条氏に従い、天正十八年（一五九〇）八王子城で戦死している。

この館は小規模なものであり、周囲に推定幅四〇六メートル、深さ一〇二メートルの堀をめぐらしていた。この内堀は東西約六十メートル、南北約九十メートルで、外堀は東西約百十メートル、南北約百三十メートルと推定される。館の北には勧解白山があり、館は丹生坂と加治原の水原にはさまれていた。また、西に智観寺、北西に丹生社、北に鎮守十二社が置かれていた。

館の周辺には中山家に仕える武士の居宅や田畑があり、中山氏は日常は産業経営を行い、武芸の鍛錬に励み、戦國にあたっては武士団の長として活躍した。

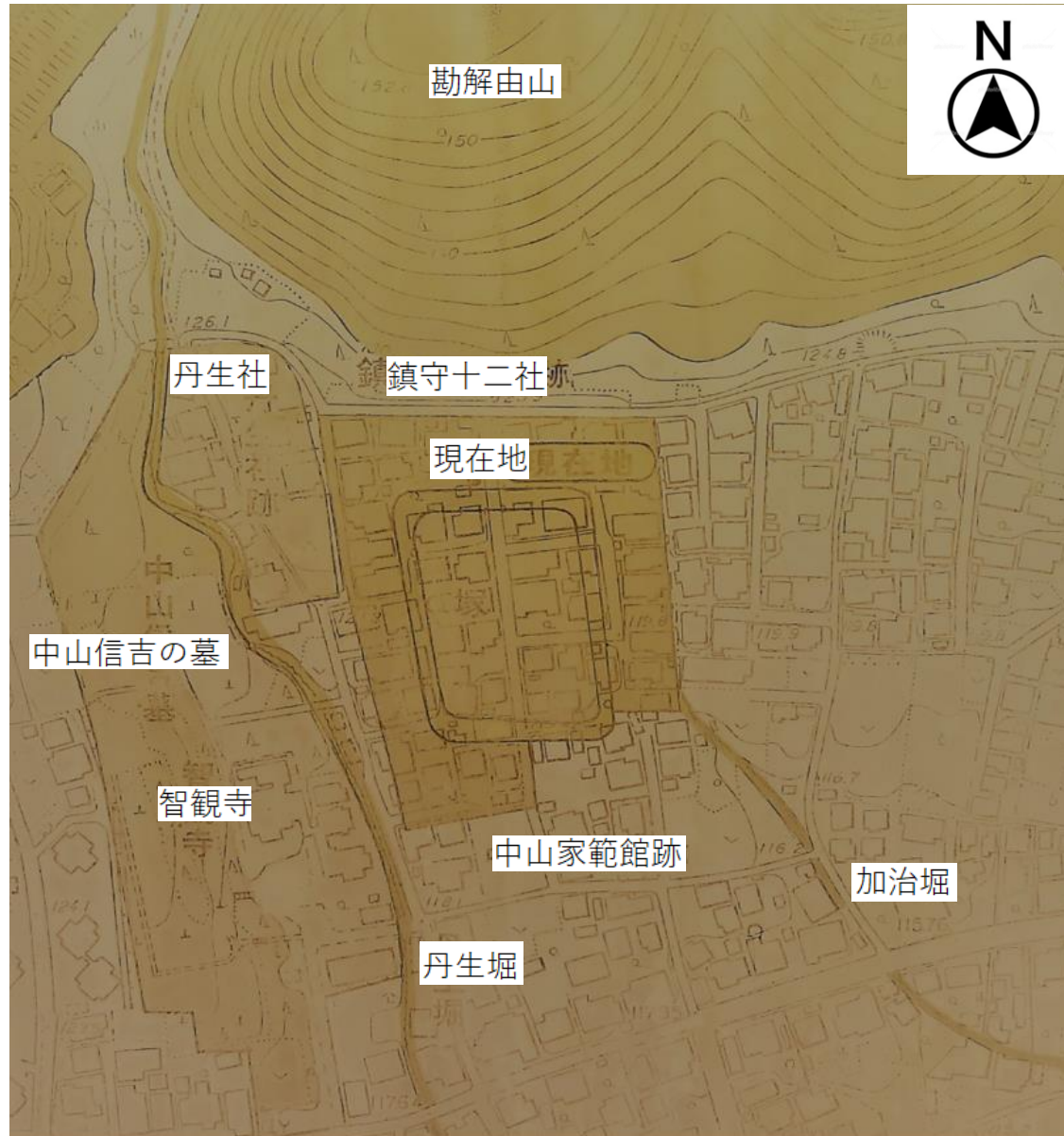
館跡は戦後、北堀及び西堀の一部が残されていたが、現在は宅地化が進み、空堀が北西部隅に残されるのみとなっている。

平成八年三月



埼玉県教育委員会
飯能市教育委員会

これは、縄張図だけでも何とか画像処理をしたもの/「現在地」の下の二重線が示す堀部分の道路



中山家範館跡縄張図/濃い目に塗りつぶしたエリアが館跡/「現在地」に遺構である館の北西側の堀跡が残っている/館の東西には加地堀・丹生堀が巡る/館の西側には中山氏の菩提寺である智観寺が所在する

「中山家は武蔵七党の一つ丹党の出で、鎌倉時代の加治家季の頃に中山に居住し、中山を氏とするようになったという。館の西方に位置する智観寺には、加治家季夫妻の供養のために建立されたと推定される板碑(仁治2・3年/1241・1242年)がある。

中山家範は後北条氏に従い、天正18年(1590年)八王子城で戦死している。

この館は小規模なものであり、周囲に推定幅4~6m、深さ1~2mの堀をめぐらしていた。この内堀は東西約60m、南北約90mで、外郭は東西約110m、南北約130mと推定される。館の北には勘解由山があり、館は丹生堀と加治堀の水源にはさまれていた。また、西には智観寺、北西に丹生社、北に鎮守十二社が置かれていた。

館の周辺には中山家に仕える武士の居宅や田畑があり、中山氏は日常は農業経営を行い、武芸の鍛錬に励み、戦闘にあたっては武士団の長として活躍した。

館跡は戦後、北堀および西堀の一部が残されていたが、現在は宅地化が進み、空堀が北西部隅に遺されるのみとなっている。」

(埼玉県教育委員会・飯能市教育委員会 中山家範館跡説明板より)

こちらの碑にも同様のことが記載されている



その左手を見ると、これが遺構である館の北西側の堀跡



反対側から見たところ



遺構としては、ここに堀跡が僅かに残る程度で、周囲は完全に住宅街と化している

[video](#)



説明板が立つ「現在地」を通る道路を北側から南方向に見たところ/人のいる右手が遺構の堀跡



反対に南側から北方向に見たところ/館跡はこの辺りから北側のエリアか・・・/前方の山が勘解由山

 video



さて、ここは館跡の北西側で、前方の山が勘解由山



そこで、右手を見たところ/この辺りに鎮守十二社が所在したようだ



同じく、左手を見たところ/この辺りは丹生社跡か・・・

[video](#)



さて、これはその丹生社跡の西側を流れる丹生堀の名残



その丹生堀の名残を南側に下って、振り返って北方向に見たところ/この右手が館跡のエリアか・・・



そこで、右手（東方向）を見たところ/ここを進んで加地掘跡を見てみよう

[video](#)



この道路が南側から北方向に見た加地堀跡のようだ



さて、ここが館の西側に所在する中山氏の菩提寺である智観寺



木像薬師如来坐像（飯能市指定文化財）の標柱が立っている



「中山家菩提寺」の文字が見える



山門の周りにも説明板が沢山見える



右手にはこんな石造物があった



「常寂山」と記された扁額



丹党の中山丹治武信が元慶年間（880年頃）に創建、鎌倉時代に丹党加治家の菩提寺に、江戸時代には中山家の菩提寺となつたと記されている



慶應4年の飯能戦争の際には振武軍の陣となり、この山門は砲弾を受けたことなどが記されている



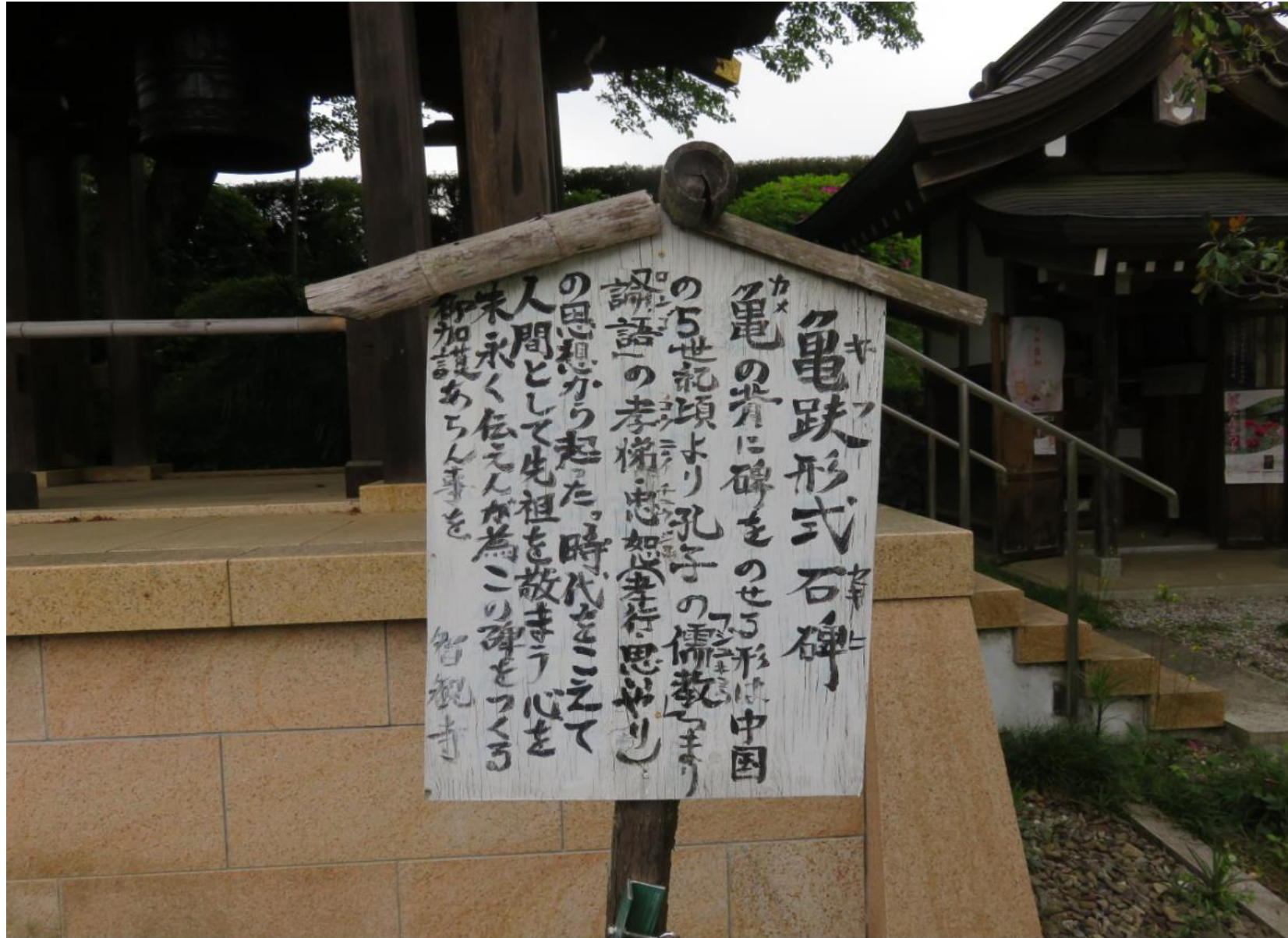
その山門を境内側から見たところ



珍しい亀趺座石碑



その説明板



この建物は宝物殿/ここにも説明板が並んでいる



飯能市指定有形文化財

木造薬師如来坐像

飯能市大字中山五二〇番地一
昭和六十二年四月一日指定

この仏像は像高五三・四センチ、檜材割矧造りで、かつて智観寺境内にあった薬師堂の旧仏と伝えられる。藤原様を色濃く残しながら、鎌倉新様彫刻の写実的な造形表現を見せる作品である。

大きな肉髻、小粒な螺髪、穏やかな面相、ゆるやかな衣文線などは、前代の藤原様式をとどめている。反面きびしさを増した面貌、背筋をスッキリ伸ばした体軀、柔らかにたたみこまれた陰影の強い衣文線の造形等には、新しい時代様式がうかがえる。構造も、頭体部の大半を一材から本取りする方法は古風であるが、各部材の矧合わせや、内割りも丁寧に仕上げたあたりは時代の新しさを感じさせる。

像は現在、県指定文化財である「中山信吉木碑」、「智観寺板石塔婆」とともに収蔵庫に保管されている。また、境内には県指定史跡である「中山信吉墓」がある。

平成九年三月

飯能市教育委員会

期日限定で公開されているようだ



智観寺宝物殿

無料公開

期日 毎年十月最終日曜

(九・三〇〜十五・三〇)

展示品 県指定・市指定文化財

林羅山木像 加治氏板石塔婆

中山信吉木像 薬師如来座像

いまだ流し絵図 数能殿并肉依文物

生尊高麗板東第一番 小面観世音菩薩

一

三基

高麗坂東世三觀世音
第一番靈場
千日堂

高麗坂東世三觀世音
第一番靈場
本尊 十面觀世音菩薩
作者 行基
御詠歌
にこらしな神のうてなの
水の面かげをうつせる
人の心には
千日堂 大久保加賀守姫
(通称) 三年、もて祈願す
享保年間小石に大東経を記し
埋石し祈願

開基 元禄15年(1702年)

これが智観寺本堂



その左手に説明板が立っている



説明板にある中山氏墓所図面の通り、智観寺境内には中山信吉から十三代の墓がある/正面が中山家範の次男である中山信吉の墓



立派な古墳のようなマウンドだ

[video](#)



墓の頂部に立つ宝篋印塔



右手から見たところ



ここは信吉嗣子信正の霊屋跡で、信正の歯骨を埋めたとされ、現在は6本の石柱、石畳、石柵等が残っている

[video](#)



説明板が立っている



風軒跡（中山信正靈屋跡）

風軒跡ふうけんあとは中山信吉の嗣子、二代信正のぶまさの靈屋おたまやであり、信正の齒骨を埋めたとされている。現在六本の石柱、石敷、石柵等が残されている。信正の墓は水戸の桂岸寺にある。

信正は信吉の死後、信吉の墓を作り、「御影堂」みえいどう（信吉の靈屋）を建てた。「御影堂」に安置された中山信吉木碑には、信吉が林羅山はやしらざんに依頼した撰文が刻まれている。撰文では信吉の生い立ちから、信吉が徳川家康に取り立てられ、その後活躍し、死に至るまでの経過が記されている。撰文からは水戸藩付家老を代々担った中山氏の初代信吉の実像が浮かび上がってくる。

信正は信吉の業績を後世に残す役割を果たした。また智観寺、丹生神社を再興し、祭礼に力を注ぐなど中山村の隆盛を図った。

平成十五年三月

飯能市教育委員会

さて、ここは智観寺のすぐ東方向にある加治神社/説明板が立っている



中山氏と加治神社

伝承によると中山のぶよし信吉の祖父にあたる中山家勝は上杉氏の家来として、北条氏との河越夜戦に敗れ中山に戻るとき、入間川の洪水に阻まれる。その時芦毛の馬を連れて老人に救われ、中山にたどり着く。老人は「吾われは吾妻天神なり」と言い残し馬とともに、天神様の前で姿を消したという。

加治神社は、明治の初め、聖天社が改称された名称だと考えられる。その後、この伝承の残る天神様（天満宮）は、加治神社と合ごうし祀される。

加治神社の現在の本殿は、明治四十年頃智観寺の北にあった丹生神社が合祀されたときに移築されたものである。参道には寛永十九年の石灯籠が六基並んでいる。中山信吉の嗣子中山信正が丹生神社中興に当たり寄進したもので、本殿とともに移転された。信正は丹生神社の祭礼にも力を注ぎ、中山村の隆盛に力を注いだ。

加治神社は、中山氏の足跡を残していると同時に、一時は中山町と称されていた中山村繁栄の一端を示している。

平成十五年三月

飯能市教育委員会

加治神社の現在の本殿は、明治40年頃に丹生神社の社殿を移築したものと云う

[video](#)



さて、ここは智観寺の西方向に所在する能仁寺



能仁寺

武陽山能仁寺は曹洞宗の寺院で、『新編武蔵風土記稿』によると、文亀年中（一五〇一〜四年）に中山家勝が斧屋文達を招いて創建したとされる。天正一九（一五九一）年、徳川家康より五石の朱印地が与えられるが、宝永二（一七〇五）年、五代將軍綱吉の時に五〇石に増される。それに力を尽くしたのが、家勝から四代後の中山直張の子で、黒田家の養子となった直重（のち直邦）である。

黒田家は、徳川綱吉が館林藩主であった時代に家老職であったため、直邦は綱吉が將軍となったから、その小姓となって後破格の出世を遂げ、能仁寺を菩提寺とした。また能仁寺一三世泰州廣基も綱吉の病気を快癒させるなど信頼が篤く、前天台座主一品公辯法親王直筆の山門額を賜っている。

能仁寺は、近世を通じて曹洞宗関三ヶ寺の一つである龍穩寺の末寺であったが、飯能地方では二〇余の末寺をもつ有数の大寺であった。しかし、慶応四（一八六八）年の飯能戦争で旧幕府方の振武軍の本陣となったため伽藍は焼失し、現本堂は昭和一一（一九三六）年二九世萩野活道師によって再建された。

能仁寺縁起では「室町中期文亀元年（1501年）、飯能の武将中山家勝が名僧斧屋文達師を招いて小庵を結んだのが始まりとされており、家勝の子・家範が父の冥福を祈るために寺院を創建した」/「明治維新時の飯能を舞台とする「飯能戦争」では、幕臣の一部で結成された彰義隊の頭取であった渋沢誠一郎は内部対立のため振武軍を結成し、能仁寺を本陣とした」と言う

これは山門（仁王門）



ここに中山家勝・家範・照守三代の墓があった

[video](#)



これが中山家範の墓



こちらは中山家勝の墓

[video](#)



飯能戦争

慶応四（一八六八）年正月の鳥羽・伏見の戦いで敗れ、「朝敵」となって江戸に戻った徳川慶喜、上野の寛永寺に謹慎した。一橋家の家臣を中心とする旧幕臣たちは、主君の汚名をそそがんと「彰義隊」を結成し、上野の山に入った。しかし彰義隊の頭取であった渋沢成一郎は、副頭取の天野八郎らと対立し上野を去り、五月初旬に田無村（西東京市）で「振武軍」を結成する。三〇〇人ほどとなった振武軍は、田無で周辺の村々から四千両を超える軍資金を調達し、箱根ヶ崎村に移った。その後、新政府方の攻撃を受けた彰義隊の援軍に江戸へ向かったが間に合わず、田無で上野戦争の残党などと合流して、五月一八日飯能の町に現れた。振武軍など旧幕府方は、能仁寺を本営に、智観寺・広渡寺・観音寺など六つの寺に駐屯した。

一方、明治新政府は、福岡・久留米・大村・佐土原・岡山の五つの藩に旧幕府方の追討を命じ、これらの藩兵は五月二二日扇町屋（入間市）に入った。そして翌二三日未明、笹井河原（狭山市）で旧幕府方と佐土原藩兵が遭遇して戦争が始まり、午前六時頃には飯能の町も戦場となった。この結果、二〇〇軒の民家と能仁寺、智観寺など四つの寺が焼失し、飯能を舞台にした戊辰戦争（飯能戦争）は、わずか半日ほどで新政府方の勝利に終わった。

参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/011saitama/236nakayama/nakayama.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/saitama/hannousi02.htm#nakayama>

<https://sites.google.com/a/onodenkan.net/lie-dao-cheng-zhi-ji-xing/qi-yu-xian/zhong-shan-jia-fan-guan>

<https://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/nakayama-ienori-yakata/>

<https://ckk12850.exblog.jp/5418511/>

<https://4travel.jp/travelogue/10862930>

https://tesshow.jp/saitama/hanno/temple_nakayama_chikan.html

<https://castles-which-kimuppe-visited.jimdofree.com/まとめてあるお城一覧/中山家範館/>

<http://blog.livedoor.jp/kiseki612-hanno/archives/20259381.html>

<http://blog.livedoor.jp/kiseki612-hanno/archives/20565416.html>

https://tesshow.jp/saitama/hanno/shrine_nakayama_kaji.html

<http://noninji.net/>

https://tesshow.jp/saitama/hanno/temple_hanno_nonin.html

